

地域で学び、地域と共に歩む松本大学の今。

松本大学学報

sokyu 蒼穹

2019.3 Vol.134



世界を舞台に活躍する松大生(詳しくはP.15をご覧ください)

特集 松本市との包括的連携協定締結 地域の発展と人材育成に向け 絆新たに P.02

- 松商学園創立120周年記念「松本大学教育実践改善賞」
質の高い実践論文多数寄せられる P.06
- 卒業研究・卒業論文発表会 P.08
- 本学初となる特許を取得 P.11
- 退職のあいさつ・新任者紹介 P.14
- 海外研修プログラム参加者への支援金贈呈される P.15 ほか

松本市との包括的連携協定締結 地域の発展と人材育成に向け絆新たに

「地域社会に貢献できる人材の育成」を使命・目的に掲げる本学では、開学以来行政と協力して数々の地域活動に取り組み、その道を模索し続けてきました。このたび松本市と包括的連携協定を締結することにより活動の基盤がより強固なものになり、これからの活動がより幅広く展開されることが期待されます。今回は、これまでの活動を中心に、松本市と連携・協力した取り組みについてご紹介します。

人づくりを担う教育学部も含め連携は新たなステージへ

松本市と松本大学、松本大学松商短期大学部は、1月9日、地域づくりや健康、人材育成などの分野で包括的に連携する協定を結びました。市と本学はこれまでも地域づくりの分野での相互の協力や地域づくりインターンシップ戦略事業をはじめとする数々の協力・連携を進めてきましたが、2017年の教育学部の開設をきっかけに、教育学部を含めた新たな分野での人材育成や連携事業を模索する意見交換を重ねたことで、今回の協定締結に繋がりました。今後は市と本学とで設ける連携協議会を中心に、「まちづくり・地域づくり」「地域文化の振興」「地域産業・観光の振興」「健康・福祉」「生涯教育」「学術研究」「インターンシップ」「施設の利用」「教育実習」などの面での新たな連携を進めます。9日の記者会見で吉廣行学長は「包括的な協定で



フットワークが軽くなり、今まで以上に多くの分野で連携できる可能性がある」「連携してきたことをさらに発展させ、新しい取り組みとなることを期待する」と述べ、協力の具体案と

して住民の定期健診での体力測定や空き家対策などを候補に挙げるなど、さらなる幅広い活動に向けての意欲を示しました。

(管理課長 赤羽 雄次)

松本市からのメッセージ



松本市長
菅谷 昭 氏

松本大学との包括的連携協定締結にあたり

現在、我が国においては、世界に類のないスピードで、少子高齢化・人口減少が進んでおり、更には、ICT・AI等の急速な進展により経済・産業の構造が大きく変化する中で、未だ誰も経験したことのない社会を迎えようとしています。

これに伴い、私たちを取り巻く地域課題は複雑多様化の一途をたどっており、松本市としても、その解決に向けて、大学をはじめ社会の様々な担い手との連携を更に強固なものにする必要性を感じています。

このような中、地域の発展と人材の育成に向け、さらなる連携・協力体制の構築を図ることを目的に、松本大学と包括的連携協定の締結の運びとなりましたことを、大変うれしく思っています。

松本大学と松本市とは、創立以来、相互の協力関係を築いてきましたが、この協定締結が、両者の所有する様々な資源の更なる結合を促し、地域課題の解決の端緒となるとともに、協定に基づく取り組みを通じて、様々な経験を積んだ、次代を担う人材が数多く育つことを願って止みません。

松本市と連携した活動事例①

まちづくり

2002年の開学以来、本学は地域と連携して地域を支える人材を育てることを使命・目的として掲げてきました。特に松本市とは地域づくり課をはじめとする各課と協力し展開してきました。最近でこそCOC事業など大学と地域の連携による取り組みが全国的に行われていますが、開学時には地域連携に対する世間や他大学の関心はあまり高くなく、むしろ評価されないスタートとなりました。しかし、地道に地域に向き合ってきた結果、本学の地域連携活動は今では地域の人々から信頼され、ますます深化していくことが期待されています。(観光ホスピタリティ学科 教授 白戸 洋)



「上土プロジェクト」10年続く活動が松本市景観賞を受賞

観光ホスピタリティ学科の4つのゼミナールが現在取り組んでいる松本市上土商店街のまちづくりは、2005年から始まりました。上土商店街には江戸時代、松本城の馬出しや牢獄がありました。明治以降新しい商業地として形成され、大正期前後からは映画館やカフェなどが建ち並び娯楽の町として親しまれてきました。しかし戦後の高度経済成長を境に映画館の閉館が相次ぎ、一時はシャッターが下りたお店が目立つようになりまし。その中で上土商店街振興組合と町内会は、

「大正ロマン」をコンセプトとして、景観の保全などのまちづくり活動に取り組んできました。その姿勢と情熱を感じた学生たちが地域の住民と一緒に商店街のまちづくりに取り組んできたのです。

プロジェクトでは子どもを対象とした学習支援や子育て支援、地域の居場所づくりである「コミュニティカフェ上土日和」やスタンプラリーなどのイベントとともに、町内会や女性部の街の清掃活動、花植えなど日常的な活動にも参加し、じっくりと信頼関係を築いてきました。そして2015年からは下町会館の1階にカフェ上土を開店しまちづくりの拠点として幅広い活動を行っています。さらに2018年度からはカフェを学生が1日使って様々なまちづくりのイベントを行う「学生カフェプロジェクト」も開始し、本学学生だけでなく高校生も高大連携事業の一環として参加しています。

このような活動が評価され、2019年1月には松本市景観賞のまちづくり部門の奨励賞として「上土商店街と松本大学生のまちづくり活動」が表彰されました。商店街は地域の居場所としての機能を果たすとともに、着地型観光の受け皿となる地域の文化や暮らしを体験できる「暮らしのテーマパーク」としての可能性を持っており、今後さらに活動が発展することが期待されます。



表彰式会場にて

進展する地域防災への取り組み 松本平の防災力向上に向けて



防災士養成研修講座の様子

本学では、東日本大震災をきっかけに継続的に取り組んできた災害支援の実績を地域社会の防災力向上に活かす、様々な活動を行っています。松本市の総合防

災訓練では、本学を会場に炊き出しや避難所の運営訓練が行われたほか、近年本学では“防災の人づくり”へとウィングを広げ、防災士養成研修講座や防災士フォローアップ研修会を通して、地域で活躍する防災士の養成やその活動を支援しています。さらには、本学内に事務所を置き、本学が運営主体となる「長野県防災士協議会」を設立し、県内自治体と連携しつつ、松本平の防災力向上に向けて地域防災活動に取り組んでいます。

(管理課長 赤羽 雄次)

地域の緑と景観を考える 「けやきプロジェクト」

屋敷林は、家屋を風雪から守り地域の景観を形作る「地域の宝」です。しかし、所有者の維持管理にかかる負担が大きい上、倒木の心配などから、屋敷林のある景観が失われつつあります。そこで、私たち「けやきプロジェクト」は、地域住民や松本市内の小学校と連携しながら、松本市渚にあるケヤキの保存活動に取り組んでいます。ケヤキと親しむイベントや落ち葉拾いに取り組む中で、住民の自主組織である「緑と景観を守る会」が発足し、地域における緑と景観への意識も次第に変わり始めています。(観光ホスピタリティ学科 専任講師 向井 健)



保存樹の歴史を学ぶフィールドワーク

松本市と連携した活動事例②

健康づくり

本学では、人間健康学部の創設以来、栄養・運動各分野の教員の専門性を活かしつつ松本市をはじめとした行政と連携し、地域住民の健康の維持・増進に役立つ活動を続けてきました。その活動は、学生にとっては貴重な実践的な学びの場となっており、専門的な知識と行動力実践力を備えた人材として社会に羽ばたくための研さんを日々積んでいます。



運動の楽しさを伝える 健康づくり講座

長野県は全国の中でも1位2位を争う長寿県であり、その理由を探る多くの研究で食事や生活パターン、そして、健康維持のための運動推進に対する行政の取り組みなどが挙げられています。本学でも松本市からの依頼を受

けて、市内各地に足を運び、運動面からの健康づくりの企画・運営に取り組んできました。

平成23年度からは、スポーツ健康学科の根本賢一教授・齊藤茂准教授とそのゼミ生を中心として「ピンピンキラキラ健康づくり講座」

を開講し、楽しく運動を行うことで運動習慣を身に付け、参加者の健康増進に繋げることを目的に、体力測定やレクリエーション、ピンキラ体操のほか、ストレッチや筋力トレーニング、ウォーキングの指導などを行いました。この講座は

29年度に終了しましたが、フォローアップ講座という形で現在も続いています。

その他地域住民の健康指導員である「体力づくりサポーター」の養成に取り組むことで、地域住民の運動に対する意識向上につとめているほか、同じくスポーツ健康学科の犬飼己紀子教授と岩間英明教授による「親子遊びランド」では、本学を会場として3歳から小学校低学年児童を対象に、運動を苦手とする子どもに運動の楽しさを伝える取り組みを6年間継続しています。



筋力トレーニングの様子

松本市立保育園給食の放射性物質調査

この調査は、平成26年3月から3年間、NPO法人日本チェルノブイリ連帯基金(JCF)との連携、松本市子ども部保育課の協力により進められました。この調査では、食材に含まれる放射性物質の存在量を調べて、状況に応じては摂取量や曝露量の評価を行います。健康栄養学科杉山ゼミ4年生が主体となり、計296食材について前処理や放射線測定、解析を行い安全性を検証しました。その結果、食材には放射性セシウムが存在しないことを確認し続け、これらの科学的データをもとに園児には健全な食材が提供されていることを示すことができました。



放射能測定装置(NaI(Tl)型)に食材入りの容器をセットし計測する

親子を対象としたおにぎり作り体験のサポート「おにぎりチャレンジ隊」

松本市農政課は、松本市産米の消費拡大と日本型食生活の普及をめざして「おにぎりチャレンジ隊」の活動を実施しています。健康栄養学科では3年前期科目の「栄養教育実習」で毎週提案書をまとめ、農政課がその年の実施案を採決しています。その後、依頼に応じて、松本市のイベント等で廣田ゼミなどの学生がおにぎりチャレンジ隊の活動支援を行っており、親子連れの参加者に無料で地元農産物を使用したおにぎりを作ってもらい、日本食の良さを再認識するきっかけとなるよう取り組んでいます。(健康栄養学科 教授 廣田 直子)



松本市主催の食育パネル展にて

食品ロス削減のためのレシピ集考案「◎いただきます!!」プロジェクト



「◎いただきます!!」プロジェクトでは、2014年から地域づくり考房『ゆめ』の健康栄養学科の学生を中心に、松本市環境部環境政策課と協働して、食品ロス削減のためのレシピを考案しています。野菜の皮や茎を使ったり料理の残りに工夫加えるレシピを紹介する「もったいないクッキング『サンクスレシピ集』」の作成や、親子で楽しく簡単に料理ができるレシピ集を作成し配布している他、考案したレシピ集は消費者庁のHPにも掲載されています。また昨年は、市内の小中学校で考案したレシピの調理実習も開催しました。

松本市と連携した活動事例③

福祉

本学の学生たちはこれまでも、身近な福祉社会の実態をより詳しく知ることによって、「福祉」分野の学びを深めてきました。地域と連携した実践的な学びの場をさらに増やすことで、現行の社会システムでは解決が難しい住民福祉の問題を正確に把握する力を備えた、将来的に現場で力を発揮できる人材を育てていきます。

(観光ホスピタリティ学科 学科長・教授 尻無浜 博幸)



「松本ユース平和ネットワーク」 広く人道支援を考える機会がここにある

松本市平和推進課に、松本市内の大学生が集まります。若者による平和を創る活動を行うためです。市内の小中学校に出向いて平和教育を担当し、自分たちの学びを深めるため研修として長崎市を訪問しています。



小学校での出前講座

テロや紛争、非核化への動きなど人間が起こす事実に基づき、平等や人権、人道活動のあり方で視点は広く及びます。まさにグローバルに考え、ローカルに行動する実践的な取り組みの一つです。

「地域再生プロジェクト」 簡単に取組めない地域の課題に向き合う



「誰一人取り残さない地域社会づくり」は国連SDGsでの枠組みです。松本市内のある団地町会による地域再生に向けた取り組みには、松本市やNPO法人をはじめとする様々な支援団体が関わっており、その一角に地元の教育機関として松本大学が位置しています。地域に関わっていると、時としてハードルが高く、失敗が許されない緊張が続く課題に直面します。学生には活動した経験の力を、福祉社会の現場で発揮してくれることを期待します。

地域活性化と若者の育成、地元定着を狙う「地域づくりインターンシップ戦略事業」

「松本市地域づくりインターンシップ戦略事業」は、地域の活性化と若者の定着を目的に、松本市と松本大学の委託契約により、2015年度から実施されている取り組みです。

この事業は、松本市内35地区の地域づくりセンターを中心に地域づくり活動に関わることをベースとし、松本大学で地域総合研究センター特別調査研究員として、福祉、環境、生涯学習、観光、農業といった地域づくりや人材育成につながる専門教育を受け、若者の地域での就業や起業への展開を支援するものです。

これまでの取り組みから見た成果

地域づくりインターンは、松本市内各地区の地域現場に日常的に携わり、住民の方々の声を通じて地域の課題を集約していきます。その課題を松本大学へ持ち帰り解決のための方策を教員を交えて検討し地域へ戻すことで、地域と松本大学との関わりがより密接になってきています。例えば新村地区では、松本大学と新村地区が合同で行っていた自主防災訓練に、地域づくりインターンが携わり、役割分担が対応困難であるという

インターンの主な活動内容(2018年度)

- 1 地区と大学との連携協定を活かした防災活動の実施
- 2 高齢者の居場所づくり事業を通じた福祉活動
- 3 公民館、福祉ひろばや地区関係団体との子育て支援事業
- 4 インターンの栄養士資格を活かした子どもからお年寄りまでの食育事業
- 5 地域資源の有効活用を通じた課題解決事業の検討と運営
- 6 地域づくり協議会子どもの居場所づくり事業への協力
- 7 地区内各種団体との連携による「並柳プロジェクト」を通じた子ども支援と福祉活動事業
- 8 地区内諸団体との連携による福祉活動への協力
- 9 地区への情報発信活動
- 10 地区内買い物支援事業への協力

状況を把握、「自主防災連合会」の組織再編に繋がりました。

このように3年間の取り組みを軸に、個々の地域との関わりが立体的に作用し、地域と松本大学との連携がより進展しています。今後もこれまでの取り組みを基盤とした更なる発展に期待します。

▶ 松本市と連携・協力して取り組んだその他の活動例

- ・観光ホスピタリティカレッジ
- ・信州まつもとこどもキャンプ
- ・電動アシスト四輪自転車の普及事業
- ・ナイトミュージアムプロジェクト
- ・世界健康首都会議における健康弁当の提案プロジェクト
- ・「信州まつもと鍋」の開発
- ・(松本市美術館・日本浮世絵博物館)
- ・学都松本フォーラム「みんなのプログラミング教室」
- ・松本市市民会議 等

松商学園創立120周年記念「松本大学教育実践改善賞」 質の高い実践論文多数寄せられる

全学教職センター長・教授 山崎 保寿

平成30年度の松本大学教育実践改善賞の授賞式が、2月23日に本学で行われました。本賞は、松商学園の創立120周年の記念事業の一つとして、学校教育における教育実践または地域の教育振興に実績が顕著な教員を表彰し、長野県全体の教育振興に寄与することを目的としたものです。

一般教員部門に17名、卒業生部門に3名、合計20名の応募がありました。校種は、小・中・高のほかに、義務教育学校、特別支援学校など様々で、年齢も20代から60代まで幅広い層からの応募でした。応募論文の内容は、山間地小規模小学校におけるWEB会議システムを活用した遠隔教育など教育方法の改善に関するもの、高等学校の英語科や商業科における授業の学習効果を高めるための工夫に関するもの、中学校や高等学校における生徒指導や生徒理解の方法を深めるための理論を踏まえた実践に関するもの、道徳科における自作教材を用いて生徒の考えや議論を深めるための提案に関するものなど、大変質の高い実践論文が多数寄せられました。

審査の結果、一般教員部門で3名、卒業生部門で1名、合計4名の

方が松本大学教育実践改善賞に輝きました。受賞論文の内容は、教育実践の効果および改善内容はもとより、長野県全体へ

の波及効果や地域連携などの点で、他校のモデルとなり得る優れたものでした。今後は冊子にして、教育委員会等に配布する予定です。

また、優れた論文の応募が多かったため、特別賞を7名に授与することにしました。特別賞の受賞論文も授業や教育活動の改善に取り組み子どもの意欲や学習効果を高めた内容、新学習指導要領の趣旨に沿った教育実践などが選ばれました。

本賞の創設を契機に、長野県教育の一層の活性化につながり、また、卒業生には教員としてのさらなる力量向上を目指すための指標の役割を果たすものになれば誠に幸いです。



～受賞者と論文名～

〈松本大学教育実践改善賞〉

一般教員部門

- 新井 清規 (長野市立茅井小学校教諭)
『I小児童と共に歩んだ地域学習の4年間の実践から
～児童の視線で学ぶ「地域」とは何か～』
- 小林 文恵 (信州大学教育学部附属松本小学校養護教諭)
『知識に基づいた意志決定と行動選択の実践力を育む
喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する指導の進め方』
- 宇佐美 昌博 (宋村立栄小学校教諭)
『遠隔共同学習を日常的なものに～3校を結んで～』

卒業生部門

- 浅見 大輔 (長野県諏訪実業高等学校教諭)
『生徒のスマートフォンを使った体験的な学習による
商業科目「プログラミング」の授業実践』

〈特別賞〉

- 古川 忠司 (長野県飯田OIDE長姫高等学校教諭)
『「自問清掃」哲学と「内観法」の内証との関係
～「見返し」の導き「感謝の心」～』
- 市岡 祥一 (長野市立七二会小学校教諭)
『WEB会議で遠隔地を結ぶ小規模校ネットワーク
「明日をつなぐWEB会議システム」』
- 宮下 智恵美 (麻績村筑北村学校組合立 筑北中学校教諭)
『理解したことをもとに、考え、判断しながら英語を使うための
授業づくり～中学校実践での課題改善～』
- 藤江 玲子 (長野県松本筑摩高等学校 (通信制) 教頭)
『いじめ被害生徒の学校復帰に向けた支援の実践』
- 矢野 司 (安曇野市立豊科北小学校教諭)
『「説得力をもって伝える力」を育む指導のあり方』
- 鷺澤 貴夫 (松本市立清水小学校教諭)
『子どもと共に作る算数科の授業
～小学校第6学年「分数÷分数」の学習を通して』
- 北澤 信 (松本市立菅野中学校教諭)
『道徳の時間の意味と可能性についての再考
～生徒が互いに承認し合う場としての道徳の時間の成立を実証する～』

学生のための新たな厚生施設棟 9号館完成

2月4日、学生厚生施設棟として建設した松本大学9号館の竣工式を執り行い、学生生活をサポートする新たな拠点の完成を祝いました。9号館は既存のフォレストホールと一体化した3階建てで、2階部分を連結させて席数約300席の学生レストランとしています。1階には学生が自由

に利用できるコモンルーム、2階には学生の外国語修得を支援するグローバル・コミュニケーション・ラウンジを設け、3階には大学院向けの演習室、研究室と同窓会事務室等を整備し、4月のオープンを予定しています。本誌次号で、詳細をお伝えします。



企業従業員のための健康づくり特別講座を実施

松本大学研究ブランディング事業推進室 専門員 近藤 壮太

去る2月4日、本学の研究ブランディング事業推進室が主催して、企業従業員のための健康づくり特別講座「人生100年時代、働き盛り世代こそ運動を！」を開催しました。根本賢一健康科学研究科教授が講師を務めたこの講座は、現在、ブランディング事業が推奨している「タグフィットネス」の採用・導入を検討いただいている企業の担当者の方々を対象に、採用・導入に前向きに取り組

んでいただくよう後押しすることを目的としたものでした。根本教授は、なぜ運動が必要なのか、また運動不足によって生じるリスクや問題などについて、研究データをもとにわかりやすく説明し、参加された方々も、自身の職場における課題と照らし合わせ真剣に考えている様子でした。また、現場で取り入れることのできる実践的な運動の方法なども紹介され、講座終了後には熱心に質問す

る姿も散見されました。さらに、講座修了後には、筋力トレーニング指導や体力測定の実演が行われました。

今回の講座を通じて、参加された方々からは「自分の体力の低下に驚いた」「企業内でも共有したい」といった感想が寄せられ、来年度からの「タグフィットネス」の採用・導入に結び付くことが期待できる良い機会になったと判断しています。

「NAGANOスポーツ☆キラキラっ子育成プロジェクト」栄養教育プログラムを実施

2027年の長野県国民体育大会に向けた競技力向上の取り組みの一環である「NAGANOスポーツ☆キラキラっ子育成プロジェクト」は、長野県競技力向上対策本部が主体となり、2018年9月22日より始まりました。現在、将来を担う小学4年生から6年生の男女44名が様々なスポーツ体験とスポーツ科学に基づく教育プログラムを受講しています。栄養教育プログラムは、本学の健康栄

養学科教員が中心となり計画して、計3回を本学で実施しました(下記プログラム一覽参照)。各回では、健康栄養学科の1~4年生までで13名、卒業生2名が補助スタッフとして参加し、学生にとってもスポーツ現場における栄養教育を学ぶ機会となりました。

本育成プロジェクトは、選手の競技力向上だけが目的ではありません。将来、長野県から世界に羽ばたくアスリートを多く輩出でき

健康栄養学科 専任講師 長谷川 尋之

る地盤づくりも見据えています。こういった栄養教育ができる管理栄養士を県下に送り出すことは、地域のスポーツ現場の活性化に繋がります。本育成プロジェクトを通じて、本学の卒業生が長野県のスポーツ現場で活躍できるように、引き続き支援していきたいと思ひます。

■各回プログラムの一覽

第1回	〈テーマ〉 食事の基本型を理解する 〈目標〉 ●キラキラっ子…自分に必要なごはん量を理解する ●保護者…選手に必要な食量、バランスを理解する
第2回	〈テーマ〉 食事の基本型を理解する 〈目標〉 ●キラキラっ子…自分の体格目標にあったおかずを選択できる ●保護者…選手の必要量にあったエネルギー調整を理解する
第3回	〈テーマ〉 補食の基本を理解する 〈目標〉 ●キラキラっ子…補食の選び方を理解する ●保護者…選手の食事・補食準備の考え方を理解する



学びの風景 地域とともに 地域をフィールドにした実践的な学びをご紹介します。

松本市の中心市街地でエクスカーショ

総合経営学科 専任講師 古川 智史

「エクスカーショ」という言葉をご存知でしょうか。エクスカーショとは、地域・空間で起きる様々な現象について、実際に現地を訪れ、景観を観察したり、案内者の説明を聞いたりするものです。「巡検」ともいいます。私の専門分野は人文地理学ですが、地理と聞くと暗記をイメージする方が多いかもしれませんが、しかし、地理学の分野ではフィールドワークが重視されており、その一環としてエクスカーショが行われます。今回は、2018年11月17日・18日のいずれも午後、松本市の中

心市街地で「商業空間の再編を含めた地域変容」をテーマに実施したエクスカーショをご紹介します。

私が担当する「地域経済論」、「地理学」の講義で参加希望者を募ったところ、2日間で計13名が参加しました。当日、松本駅に集合した後、まず駅前の景観を眺めながら、鉄道の開設や戦後の市街地整備などを通じた駅周辺の街並みの変貌をイメージしました。その後、いくつかのスポットを回って、江戸時代の城下町の構造、大型商業施設の立地、商店街

の形成から個性を活かしたまちづくりへの展開、松本城と景観などのトピックを取り上げ、松本の街の変化に対する理解を深めました。

全体で約3時間歩きましたが、両日とも無事にエクスカーショを終え、松本駅で解散しました。参加者の感想をみると、普段の松本とは違う側面の理解や、街の変化の実感につながったようです。

今後も、アウトキャンパス・スタディとしてエクスカーショの機会を設けていきたいと考えています。



11月17日の様子

卒業研究・卒業論文発表会

大学4年間、短期大学部2年間の研究活動の成果を発表する「卒業研究・卒業論文発表会」が各学部、学科において行われました。

総合経営学部 総合経営学科

大学4年間の集大成 内容が濃く素晴らしい発表相次ぐ

総合経営学科教務主任・教授 小林 俊一

総合経営学科における卒業研究発表会が2月7日1・2限に開催され、21組26人が発表を行いました。企業分析、経営分析、町おこし、商品分析、コンテンツツーリズム、スマホアプリ開発、株価のテクニカル分析など、内容は多岐に渡り、総合経営学科らしいバリエーションに富んだ素晴らしい発表が続きました。



発表は、講演5分＋質疑応答2分という短時間の中に、大学4年間の集大成ともいべき卒業研究の成果を詰め込んだ、内容の濃いものでした。大勢の見つめる演壇に立ち、ガチガチに緊張している学生が多くみられましたが、全員持ち時間をきちんと守り、質問にもしっかり答えた立派な発表でした。

総合経営学科の3年生と2年生も多く集まり、先輩たちの発表に耳を傾けて、メモを取り、鋭い質問をする姿が見られました。4年生の卒業研究の経験は、社会で出会う問題解決を必要とされる様々な場面

できっと役に立つことでしょう。3年生と2年生の皆さんには来年、再来年の発表会で、今年の発表を超える良い卒業研究を期待しています。

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
筒井 千暁	兼村	長寿企業の研究～長野県企業を例に～
安楽 暁永	葛西	ファッション・ビジネスにおけるSPAモデルの比較研究
貝淵 良太	清水	長野市中条の地域活性化
金子沙也加	清水	老舗から学ぶ事業継承
多田 春菜	清水	道の駅中条における6次産業化の現状と課題
中村 大地	清水	道の駅の現状と展望
平林 侑恭	室谷	ビール・クラフトビールの世界
松崎 蓮	室谷	シェアハウスに住みたい～松本市でシェアハウス～
磯尾 貴之	室谷	Monacaを使ったゲームアプリ開発
伊藤 成活	室谷	アニメと聖地巡礼
内川 牧子	室谷	「コンテンツツーリズム」による経済効果
柴田 光	室谷	飲食店経営とは～成功するためには～
神原 亮太	室谷	クラウドファンディングの実態と有効性
高木 広喜	室谷	サッカーにおけるデータ分析とその必要性
登川美智子	小林	移動平均線を利用したトレード方法
柳沢 遥也	小林	移動平均線のトレンドと株価の関係
百瀬 友亮	小林	5日線、20日線、60日線を使った売買
小野澤達也	小林	株の暴落について
矢口 耀平	小林	移動平均線からわかること
小笠原美乃里	小林	日経平均株価の暴落前後の動き
荻原 瑞季	小林	株価の動きの傾向の研究
宮澤 佑季		
西澤 勇斗		
野本 聡		
務臺 浩平		

総合経営学部 観光ホスピタリティ学科

「観光」「福祉」「地域」の観点からの 多彩な研究発表

観光ホスピタリティ学科教務委員・専任講師 田開 寛太郎

2月7日、観光ホスピタリティ学科の卒業研究・卒業論文発表会が行われました。5つの研究室から合計13本の発表があり、「観光」「福祉」、そして「地域」の3つの観点から実に多彩でバラエティに富んだ発表をみせてくれました。4年生はそれぞれの研究課題について堂々とした態度で発表し、なかには緊張した様子も見受けられましたが、発表を終えたあとの安堵と達成感に満ちた表情が印象的でした。



さて、卒業研究・卒業論文は学びの集大成であり、ある意味、大学における究極的な実践の場です。これまで多くの困難や挫折があったかもしれませんが、発表当日は限られた時間でわかりやすく他人に伝えることの苦労もあったかもしれません。卒業研究が

実りあるものとなり、そして、1年後、5年後、10年後への大きな収穫は、こうした努力と熱意が積み重なってようやく得ることができると思います。このかけがえのない経験が皆さんの自信へとつながり、卒業後も自分の力を信じて活躍することを期待しています。

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
小西 優典	山根	松本空港活性化への提言
塚原 雄大	山根	「農」を活かした観光振興
櫻井 志歩	山根	安曇野市観光振興への提言
春原光太郎	益山	長野県と新潟県の日本酒と食との関わりについての研究～株式会社酒千蔵野と朝日酒造株式会社の事例より～
田口 裕斗	益山	飯田市の利用者が少ない路線バスの課題
清澤小百合	益山	観光地への交通アクセスと自転車利用について～松本の事例より～
工藤れんげ	益山	開放的な居場所型商店街に関する研究
宮阪光太郎	白戸	暮らしをテーマにしたテーマパーク型商店街に関する研究
丸山 大輔	白戸	食歩歩きを事例とした新しい商店街の可能性についての研究
鈴木 翔太	白戸	「空き家問題」への処方箋
児野 帆純	白戸	
市岡 泰智	白戸	
藤岡 佑基	白戸	
小平 一樹	白戸	
早川 純平	白戸	
胡桃沢翔平	畑井	
中澤 瞳花	畑井	
小林 王明	畑井	
小松 明莉	畑井	
鴨井 朋康	畑井	
青木 悠里	畑井	
鳴海 朋夏	畑井	

各々の研究を工夫凝らして発表

健康栄養学科教務主任・准教授 矢内 和博

2018年度健康栄養学科卒業研究発表会は、12月15日に開催されました。本年度は口頭発表12題、ポスター発表は昨年より9題多い41題となりました。

口頭発表で特に目を引いた演題は、廣田ゼミの「栄養学的な課題を軽減したラーメンの作成」。演者のユーモアあふれる発表に会場は大盛り上がりでしたが、内容についてはさすがの廣田ゼミで、今までの学びを踏襲し、しっかりとまとめられたものでした。口頭発表はどれも、聴衆にいかにも耳を傾けてもらうか、という点での工夫が見られた発表でした。参加した3年生の来年度の発表にも大いに健闘を期待したいと思います。また、1年生の参加が見られたのはとてもうれしいことでした。



卒論発表会は、卒業年次生の大きなイベントですが、参加者はこの場を学びの触発の場として、様々な研究成果を見聞きして、まず

は管理栄養士として社会で活躍するモチベーションを高め、自発的な学びにつなげてもらいたいと思います。

最後には、本年度を持ってご退職される進藤先生への花束贈呈があり、先生のお話をいただき感動のフィナーレを迎えることができました。進藤先生の今までのご尽力に敬意を表し、益々のご健勝をお祈り申し上げます。

■口頭発表の内容

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
上條 未散 小林 芽以	成瀬	米の消費促進のための意識調査と媒体作成
黒岩 明希		
小相澤瑞穂 百瀬 直美	石原	グルテンフリー米粉パンの性状に及ぼすコーンスターチ置換の効果
花岡 明音		
小倉 早貴	沖嶋	災害時の食物アレルギー児支援として、バッククッキングは有効である
西牧 杏歌		
土屋 茜 中澤穂乃香	藤岡	食事管理アプリの栄養計算機能は有効か？
丸山 芽生		
小林千寿瑠	木藤	市販されている鶏ひき肉の細菌汚染状況の調査
中牧 正俊	福島	チョコレートの世界史と現在の課題
小河原麻衣	矢内	安曇野産リンゴの高次利用法の開発～規格外リンゴから製造されたリンゴジュースの残渣を用いた新素材開発と新商品開発～
細野 佳史		
丸山ゆきの	山田	TGF-βによるSHARP-2遺伝子の発現調節機構とSHARP-2との相互作用に必要なATBF1の最小ドメイン解析
宮下 美夏		
伊東 美月 西山 匠	高木	フェルラ酸誘導体アミドによる糖新生系酵素PEPCK遺伝子の発現抑制作用の解析
片岡 克斗 百瀬 菜穂		
坂口 綾菜 山田 結実	廣田	栄養学的な課題を軽減したラーメンの作成
梅澤 貴裕	長谷川	プロスポーツチームで働くスポーツ栄養士の在り方
宮原 朱璃	進藤	足底皮膚からの情報がヒラメ筋運動細胞に与える影響
白石 莉菜 柳澤 聖香		
西 俊百美 山岸 彩乃		

すばらしい卒業論文発表会でした

スポーツ健康学科教務委員・准教授 丸山 文男

平成30年度卒業研究発表会が、昨年12月22日に5号館2階で開催され、20題の口頭発表と79題のポスター発表が行われました。いずれも幅広い研究内容で、スポーツ健康学科では2年生から4年生までの全員がその発表を聞きます。右表の口頭発表の題名を見ただけで、研究が幅広い内容になっていることがよくわかります。口頭発表者は5人ずつのグループとなり、発表時間は1人あたり7分、質疑応答が10分という短い時間でしたが、学生や教員から質問やコメントがたくさん出され活発な討論が行なわれました。またポスター発表においては、発表者は自分の研究を熱心に説明しており、参加者は、発表者から直接研究を説明してもらえるため、たくさんの質問が出されていました。3年生は口頭発表の座長を務めたほか、全員が抄録集製本、前日準備、受付、発表会の進行、後片付けなど、運営に一生懸命に取り組んでいました。また、来年度研究室に入る2年生は、将来行う研究を知ろうと、熱心に聞いて



は、あらかじめ解答が用意されている問題は少ないです。自分で課題を設定し、アプローチ方法も自分で考え、解答も自分で導いた卒業論文は、これからの人生で必ず役立つはず。自信を持って大きく飛躍して欲しいと思います。

■口頭発表の内容

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
清野 航平	新井	望ましい学校部活動の在り方 ～レクリエーション志向と競技志向の両立を目指して～
小野 彩乃	犬飼	子どもが育つ地域社会と父親の関わり方 ～0地区での調査を基に次世代子育ての環境を探る～
濱 萌乃	岩間	教師はスクールカーストとどう向き合うべきか
岡本 悠	江原	コンプレックス使用による身体パフォーマンスの向上について
齋藤 千春	河野	若年期における高脂血症食摂取は加齢に伴う耐糖能変化を改善する
青柳みどり	齊藤	野球の先制試合は本当に勝率が高いのか？
桑原 直人	田邊	若年者を対象とした色彩の違いが作業効率に及ぼす影響について
徳武 和季	等々力	日本の野球がさらなる拡大・発展を遂げるには ～競技人口問題や最先端のボールパーク化を中心に～
野田 敦也	中島(弘)	幼児におけるバランス能力と足裏、運動能力及び活動量との関係について～年中児を対象として～
竹村 絵梨	中島(節)	大学生におけるデートDVの実態
平林 和昌	根本	簡易な測定項目から体重支持指数を算出する推定式の検討
上柳 凌平	山本	大学男子陸上跳躍選手における骨評価値と跳躍力及び脚筋力との関係
中村 海斗	新井	少年マンガにみるジェンダー表象 ～「ONE PIECE」、「ドラゴンボール」及び「SLAM DUNK」の分析～
宮下 和也	犬飼	集団の在り方の一考察～「社会的手抜き」から考えるエンゲージメントの価値～
水島 優	岩間	スターティングブロックの使い方の違いがスタートに及ぼす影響について
滝沢 裕真	江原	大学生のスキー・スノーボードに対する意識調査
種岡 優希	齊藤	サッカーにおいてどのようにスコアを動かせば勝てるのか？
依田 彩花	田邊	タオルを用いたベーシックセブンプンが立位姿勢に及ぼす影響について
村瀬 直希	等々力	大相撲界の現状と課題 一角界の財政状況と不祥事をめぐって～
松田 滉也	根本	VR映像と平面映像を視聴しながら行った運動が運動実施者に及ぼす影響

松商短期大学部

8ゼミの代表者が発表
多岐にわたる研究に関心集まる

松商短期大学部教務主任・教授 矢野口 聡



1月23日、1年生のゼミの時間を使って2年生の卒業研究の成果を発表する「卒業論文発表会」が開催されました。2年生は1月15日までに卒業論文を提出しており、その中から8ゼミの代表者が壇上立って研究成果を発表しました。

今年度も、金子ゼミのおにぎり商品開発や伊東ゼミの広報誌作成、矢野口ゼミのゲーム開発といったゼミの伝統ともいえる研究テーマの他、飯塚ゼミや中村ゼミの経営戦略に関するテーマや藤波ゼミや川島ゼミの健康に関するテーマなど多岐にわたっていました。

中でも注目を集めていたのが、浜崎ゼミのVR(バーチャルリアリティ)技術を使ったゲーム作品の開発で、VRゴーグルを装着したプレイヤーが仮想空間に作られた教室で、迫ってくる多数の烏賊型の

敵キャラクターを打ち倒して単位を集めるというユニークなシューティングゲームが披露されました。発表者は大型スクリーンに投影しながら実演し、制作に向けた都内のVR施設見学や、デザインから完成までの作業の過程についての紹介もあり、ゼミ生たちが協力して熱心に取り組んできた様子がうかがえました。

1年生は、先輩たちのテーマやプレゼンの仕方などについてアンケート用紙に感想と共に4段階で評価を付けながら興味深く発表に耳を傾けていました。これからの研究に向けてイメージを膨らませられたことと思います。

■発表者一覧

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
南山 幸穂	金子	Product development of rice-balls
横内 沙織	藤波	生活習慣病と死
上野福太郎		
牛丸 七海	飯塚	ジャーナリズムの経営戦略
牛丸はるか		
山崎 詩織		
百瀬 純		
瀧澤 咲季	矢野口	スクラッチを用いたゲームプログラムの作成
田本 晴生		
嶋田 凌太		
関口 雪菜	川島	生活習慣が体組成に及ぼす影響
望月 萌		
伊藤 莉佳	伊東	広報誌作成で広がった世界
唐澤 留奈		
久保田麻友	中村	USJのマーケティング戦略—世界のUSと比較して
久保田莉帆		
大角 栞優		
北原 妙	浜崎	3Dアプリケーション(VR)の開発
児玉 侑望		

大学院修士論文審査発表会

自信に満ちた顔、さらなる飛躍を!

健康科学研究科教務主任・教授 高木 勝広



2月13日、大学院健康科学研究科の修士論文発表会が開催されました。

発表前の院生たちは真剣な面持ちで資料を見入るなど一様に緊張していたようにみえました。会場には、教員の他に大学院や研究に興味がある学部生も数名参加していました。

心地よい緊張感が漂うなか山田一哉研究科長から挨拶があり、修士論文発表会が始まりました。社会人の院生2名の発表内容は、日本の高校球児におきている「イップス」について社会学的視点から分析したものと、キックボクシングにおいて行われる急速減量の目的について「体格の有利さ」以外から検討したものでした。いずれもアンケート調査やインタビュー調査のデータを分析の資料とし、研究デザイン・手法とも的確で、様々な角度から考察がなされていました。社会人ということで仕事をもちながらの研究活動だったため、日頃の時間調整が一番の課題だったと思いますが、論文を見事に仕上げていました。一方、人間健康学部から進学した院生は、レチノイン酸(ビタミンAの生理活

性型)の生理学的な意味について培養細胞を用いて研究したもので、素晴らしいプレゼンテーションと質疑応答を行いました。判定会議では、いずれの研究も修士論文として価値を有すると判断され、全員が合格しました。発表後には、恒例の記念撮影会が行われ、どの顔も、すべてをやり切り自信に満ちた顔で、大学院生活の苦楽が凝縮した素晴らしい一枚だと思いました。

大学院における研究で培われた論理的思考は、今後の社会生活においてどんな立場になろうとも大いに役立つことと確信します。皆さんのさらなる飛躍を期待しています。

発表者	論文タイトル
栗林 美智子	日本の高校球児に起る「イップス」についての社会的考察—個人的病因論を超えて— A Sociological Study on the "Yips" Occurring to Japanese High School Baseball Players: Beyond Personal Etiology
柴田 和宏	キックボクシング競技における急速減量の意味—体格における有利さの追求の前にあるもの— The Meaning of Rapid Weight Loss in Kickboxing Competition: Considerations Prior to Pursuit of Advantage in Physical Sources
林 桃子	レチノイン酸によるSHARP-2遺伝子の発現調節機構の解析 Analysis of regulatory mechanism of expression of the SHARP-2 gene by retinoic acid

「第7回松本大学教員研究発表会」 幅広い分野にわたる研究交流行う

研究推進委員会委員長・教授 木藤 伸夫

2月27日・28日の2日にわたり、第7回となる教員研究発表会を行いました。今年度は3学部の教員から昨年度より13演題多い計46演題の発表がありました。学内の研究助成金、地域志向研究費の受給者からの発表に加え、大学間連携による共同研究の成果などが報告されました。今年度新しく着任された教員による研究発表や、助成金を受けていないにもかかわらず積極的に研究成果を発表してくれた教員もいて、昨年にも増して充実した内容となりました。参加した教職員は両日とも50人を超え人数は延べ110名ほどになり、こちらも昨年より増加し賑わいをみせた発表会となりました。また、タイムキーパーなどの会場運営は、本学卒業生で松本市インターンシップ

事業に参加している地域総合研究センター特別調査研究員に依頼し、スムーズな運営を行うことができました。

今回も昨年と同様に2会場に分けての発表会となりましたが、昨年この欄で指摘したように、開催方法については検討する必要があると考えています。年に一度、各教員の研究発表をまとめて聞くことができる機会ですから、全ての発表を聞くことができる運営スタイルが望ましいものと思われれます。よりよい運営のためのご意見お待ちしております。

毎年このことですが、この発表会が刺激となり本学の研究活動が学部の枠を超えて活性化されることを祈念しています。



幅広い分野にわたる研究交流

教員の
研究発表など
詳細はこちらから



本学初となる 特許を取得

人間健康学部健康栄養学科の水野尚子助手が出願していた、「食食用マットおよび食事シミュレーションツール、食事シミュレーションシステム」の特許権が設定登録される運びとなりました。平成30年に本学に発明管理部が設置されてから初めての特許取得となります。栄養バランスの良い食事を習慣化するためのツールとして、料理を主食、主菜、副菜などに分けて食食用マットにのせ、何が足りないかを一目でわかるように工夫した食事マットの発明です。実際にこの食事マットを使用した食事指導により、企業従業員のBMI、腹囲、血圧の改善が見られたという結果が、松本大学研究紀要(2018年)で報告されています。本マットを使用して食事管理を行うソフトシステム(NAOシステム)も開発中であることから、現在進行中のブランディング事業でも、この食事マットを積極的に活用し、広く社会に定着させたいと考えています。(発明管理部会長 研究推進委員長・教授 木藤 伸夫)



研究室紹介

松本大学図書館長・教授
伊東 直登

情報を武器にできる 自立した人材を育てる

私の専門分野は、図書館情報学です。狭義的には、図書館を通して情報の利活用を進めるための諸研究と言えますが、広くは、情報を正しく活用できる社会づくりと考えています。こうした考えの中で、伊東ゼミでは情報の収集と発信に関する研究や実践を行っています。人類が初めて体験している情報氾濫時代にあって、情報の正確さや必要性を見極め、責任を持って的確に整理活用できる能力は、一個人としてばかりでなく、地域や自治体、国においてさえもその生き残りのために不可欠なものとされています。

情報を収集分析し、活用・発信する。その手立てとして、ゼミ生は自分でテーマを決め、発信媒体として広報紙を作成しています。自身の好きなテーマを選定するのですが、それだけに日ごろに情報を、自分に都合の良い取り入れ方をし扱っていただけだったのが、調査や取材が進むにつれてわかってきます。このとき、自分の責

任で正しい情報を収集し、判断し、記事にして人に伝えることの難しさを学び始めます。

とは言え、自分の関心事について詳しく知ることは楽しいもの。知の扉を開ける楽しみを知る過程でもあります。それをレイアウトし、決まった字数にまとめるスキルを学びながら、皆で産みの苦しみと創作の過程を楽しんでいます。

蛇足にはなりますが、大学図書館はこうした情報リテラシー教育を主体的に支援すべき所。本学の学生たちに、最低限必要な情報リテラシーを身につけ、自立した人として巣立ってほしいものと願ってやみません。



明治大学文学部卒。塩尻市立図書館長、塩尻市市民交流センター長等を経て現職。【専門分野】図書館情報学 【研究課題】図書館サービスと図書館経営/図書館サービスを生かす施設/図書館と地域活性化 等

地域の健康づくりを支援する 地域健康支援ステーション



地域健康支援ステーションでは、地域からの依頼をいただき健康づくりの支援やメニュー提案など実践的な活動を行っています。最近の活動をご紹介します。

管理栄養士
スタッフ
飯澤 裕美



健康運動指導士
スタッフ
土井 麻弓



ふれあいセンター広丘にて新しい運動教室スタート!

塩尻市社会福祉協議会からの依頼をいただき、1月10日・11日に、ふれあいセンター広丘での運動教室がスタートしました。3月末まで毎週実施する全12回の開催で、木曜日コースと金曜日コースがあります。会場の機能改善訓練室に設置されている酸素運動マシンと油圧式トレーニングマシンを使用した運動を、土井健康運動指導士が指導します。60歳以上の男女が10名ずつ参加していますが、運動を全く行っていなかった方もいれば、毎週テニスやバドミントンなどの運動を行っている方もいます。参加者の皆さんはそれぞれの目的や目標に向かって、自分にあった運動の方法を教わり覚えていこうと、とても意欲的に取り組んでいます。教室が始まって1カ月目頃には「以前よりも運動が楽しくなった」「この教室に来ると頑張ろうと思える」「体が軽くなって気持ちも明るくなった気がする」といった良い効果を自覚していただけただけです。また、継続して参加する教室のため、参加者同士での情報交換や、汗を流したあとに一緒に昼食を食べていくなど、健康づくりの仲間としての交流が深まっているようです。3月末の最終回での皆さんの体力測定の結果が楽しみです。



原村でウォーキング教室を行ってきました!

原村保健センターより依頼をいただき、2月8日に村民を対象にしたウォーキング教室を開催し、土井健康運動指導士が指導を行いました。参加者の多くは、普段運動をしていない方々で、その理由で多かったのが「寒いから」という答えでした。この教室は今年度2回目、今回も正しいウォーキングの姿勢や実施方法などの指導を行いました。冬の原村は寒さが厳しくどうしても運動量が少なくなってしまうことが想定されたため、ウォーキング指導のあとにゴムチューブを使用した簡単トレーニングを用意しました。実際にトレーニングを行ってみると、初めのうちは「こんな簡単でいいのね」と笑顔だった参加者の方々からも、徐々に「腕が上がらない」「暑い」などの声が出始め、しっかり負荷がかかっている様子がうかがえました。教室終了時に、ゴムチューブを持ち帰っていただくことをお伝えすると、「これなら家でもできるわ」という嬉しい言葉をいただくことができました。



日本語学習サロンでの料理教室

結婚を機に松本に住むようになった海外の女性に、語学や生活の支援などを行っている「日本語学習サロン」運営スタッフからの依頼をいただき、日本の家庭料理づくりの教室を昨年12月13日に松本市安原地区公民館で実施しました。



定期的にサロンに集う外国出身の女性たちの「お弁当にも使える日本の家庭食を学びたい」との希望にお応えて、飯澤管理栄養士とサロンの日本人スタッフが「おにぎり」「凍み豆腐となめこの味噌汁」「筑前煮」「厚焼き卵」の4品を作りました。お正月料理にも応用できるよう筑前煮の野菜は縁起物の飾り切りに挑戦し、松茸いも、菊花れんこん、亀甲しいたけ、ねじり梅など、それぞれ切りそろえて煮しめたところ、手先の器用な方を中心にお互いに教えあうなど作業を通して交流も深まりました。「飾り切りを覚えたので家で子どもたちにも食べさせたい」「凍み豆腐の使い方が分かったので今度買ってみよう」「ほかの家庭料理も覚えて自分で作りたい」などの声が聞かれました。また、今までの味噌汁は自己流で作っていたけれど、作り方の基本が学べたので自信を持って料理ができると喜んでいただけました。

「MGプレス」元旦特別号の取材を受けて「みそパン」の魅力を発掘

昨年12月、松本平の情報を発信するタブロイド紙「MGプレス」から、元旦に発行する新年特集号の記事の取材依頼があり、人間健康学部健康栄養学科の一年生有志5人が「みそパン」の魅力の発掘に挑みました。特集面のテーマは「松本平の食と平成を振り返る」。5人は次世代に残したい食の一つとして中信地区で親しまれてきた「みそパン」について、若い感性で魅力を引き出すチャレンジをし、取り組みを取材していただきました。



提供:MGプレス

数回にわたった取材のうち、初回は「みそパン」を試食してその特徴について意見を出し合いました。甘い、しょっぱい、パサパサするなどの素直な感想を出し合い、2回目は「みそパン」の魅力を引き出すための加工方法や組み合わせなどを、実際に20数種類の食品を用意して検討しました。そこから8つのアイデアレシピが生まれ、3回目は試作品を持ち寄り、レシピを完成させました。当初1頁分の記事にする予定とお聞きしていましたが、学生が頑張っており取り組んでいる姿を表紙に使っていただき、新年特集号の2頁分を本学学生が飾ることができました。

皆さまのお近くで、学生や専門スタッフ(管理栄養士・健康運動指導士)がお手伝いできることがありましたら、是非お声をかけてください。



話と和と輪、想像と創造の空間 地域づくり考房『ゆめ』



地域づくり考房『ゆめ』は、学生が大学での学びを活かして地域と連携し、地域の課題解決に向けて主体的に取り組む活動を支援しています。

学生の熱意も次年度メンバーに引継ぎ こどもあそび隊

こどもあそび隊は、毎回7号館コモンルームの床を畳とマットで模様替えし、親子で夢中になれるイベント“こども広場”の企画運営を行っています。メンバーは、大学・短期大学の学生26名です。毎回のアンケートでいただく意見を参考にして「梅雨かえるまつり」など季節感を取り入れながら実施するよう心掛けています。

2月には、次年度メンバーに引き継ぐため、1年間のふりかえりと備品の確認を行いました。その時、学生からは次のような

意見がありました。「こどもが好きなので参加。本番ではクレヨンで好き勝手に落書きしたり紙を破る子どもにたじろいだが、別のおもちゃで気を引くノウハウを身につけた。(松商短期大学部1年生女子)」「1年生から参加して、屋外の芝生で水遊びするアイデアを実行した。まだ水鉄砲ができない乳幼児にはシャボン玉を用意して保護者にも喜んでもらえた。(松商短期大学部2年生女子)」「小学校入学前



の子ともつれ合いたいと加入。子ども同様に保護者も真剣で、子どもだましは通用しないと感じた。(教育学部1年生男子)」

次年度も充実した活動が期待できそうです。

(地域づくり考房『ゆめ』 課長 白井 健司)

キラキラ輝いた20の瞳

長野県の最北端に位置する栄村は、豪雪地帯であるため1年のうち5カ月は雪に閉ざされます。

1月12日・13日に学生プロジェクト「ええじゃん栄村」の学生10名は白い世界の栄村小滝地区を訪ねました。

昨年の10月には秋の紅葉で美しい栄村を訪れ自然の美しさに感動しましたが、今

回の目的は、雪深い小滝では住民はどんな暮らしをしているのか、もっと小滝の皆さんと交流したい、災害を機に積極的に地域づくりに取り組んでいる方と会って話が聞きたい、そんな思いで小滝地区を訪問しました。細く曲がりくねった雪の坂道を上ると、3百年先までの続く集落を目指し活動する小滝プラス代表の樋口正幸さんが迎えてくれ「やあ、よく来たね」。初めての出会いで緊張していた学生にとって、その言葉と笑顔は、久しぶりに会う懐かしい人の温かい出迎でした。

樋口さんたちは、「集落に残された自分たちは『楽しく暮らしやすい小滝』を目標に外部との連携を図

りながら『生まれ育った小滝をもう一度盛り上げたい!』そんな思いで被災した集落を地域が一丸となって取り組んできた」と熱く語ってくれました。夕食を食べながら話しをお聞きした学生は食べることを忘れてしまうほど樋口さんの話に引き込まれました。

翌日のどうろく神祭りでは、小滝の住民の何倍かの人が集まっていました。地域を盛り上げようと小滝出身の方が帰って来ていたのです。学生に気軽に声を掛けてくれ、あっという間に小滝の皆さんと親しくなって、学生は人の優しさや気使い、会話の楽しさ、目標に向かって進む大切さを知り「誰かのために何かお手伝いがしたい」「小滝の魅力を発信したい」など、次年度の活動のきっかけができた充実した訪問でした。

(地域づくり考房『ゆめ』 山岸 勝子)



少年たちの更生への取り組みに感謝状

総合経営学部総合経営学科4年生の児野帆純さん(写真)は10月18日に行われた第64回長野県厚生保護大会において、入学時から続けた松本BBS会の活動に対して長野県保護観察所長より感謝状を贈られました。



「◎いただきます!!」学生ボランティア団体に選定

学生プロジェクト◎「いただきます!!」が2018年度『学生ボランティア団体』(一般財団法人 学生サポートセンター)に選定され、10万円の活動助成を受けました。



賞状を授与されるリーダーの大日方晴奈さん

退職のあいさつ

本年度で6名の教職員が本学を退職することになりました。

楽しい職場でした

健康科学研究科・健康栄養学科 教授 進藤 政臣



医療の世界から教育現場へと職場環境はかなり変わりましたが、若い学生さん相手に楽しく仕事をさせてもらいました。やはり仕事の楽しさは管理よりも現場だということを改めて実感しました。自由に言い合える環境で、親しく協力して下さった教員そして職員の皆さんには深く感謝しています。本当にありがとうございました。本学に対する地元への期待は大きいと思います。課題は多いと思いますが、地域に根付いた大学として益々のご発展を祈っています。

医食同源から医食動眠同源へ

健康科学研究科・スポーツ健康学科 教授 江原 孝史



松本大学での七年間は健康について考え、かつ実行できる環境が整っており、まさに医食同源で働くことができました。食の点では、給食実習でいろいろな食品・食材について説明を受け、食事を楽しみながらいろいろ勉強できました。運動も加わっていたため医食動眠同源でした。これからは睡眠も大事なので、医食動眠同源で行きたいと思います。一つ残念なことは、経済状況によって勉学を継続出来ない学生のいることでした。

夢を追い完全燃焼

学校教育学科 教授 武者 一弘



信州の地に根ざした教師を育て、かつ地域に育つ子どもに携わる地域の人々とともに歩みたいと、大学教員として最後の夢を追って、松本大学教育学部に勇んで着任しました。以来、研究者としては開かれた学校づくり全国交流集会in松本の開催や母親大会での招待報告など、学生とともにあっては、信大附属松本小の参観、旧新村の文化財巡り、焼き肉大会など、短い期間ながらも全力で駆け抜けました。松本大学の益々のご発展と学生の皆さんの益々のご活躍を祈念しています。

学生たちの活躍を願って

観光ホスピタリティ学科 准教授 八木 雅子



松本大学着任から13年、教職員の皆様にお世話になりました。有り難うございました。着任前は、1カ月のうち20日間は日本を離れ世界中を飛び回る生活を30年余り過ごしておりました。その間に得た様々な経験が私に与えた影響は計り知れません。その経験から着任後、私が学生たちに伝えた社会で求められる力が、彼らの活躍の一助となり、国内のみならず広く世界に羽ばたくことを期待しています。そして、将来を担う若者を育てる松本大学の更なるご発展をお祈り致します。

人生の扉

総務課 主事 中田 補子



人生の扉という歌を聴きながら、この文章を書いています。「満開の桜や色づく山と紅葉をこの先いつたい何度見ることになるだろう」「信じられない速さで時は過ぎ去ると知ってしまったら、どんな小さなことも覚えていたい」人生の折り返し地点を過ぎたあたりの素直な気持ちがこの歌詞に語られていて好きな一曲です。残された時間を憂うのではなく、まだまだこの先へ続く日々を期待していきたいです。「I say it's fine to be 60 You say it's alright to be 70」そして、自分への応援歌として私は聞いています。

思いやりと笑顔の2年間

女子ソフトボール部 監督 榎本 みなみ



松本大学を卒業してから6年が経ち、指導者として本学に戻り働かせていただき、感慨深い気持ちに何度もなった2年間でした。学生生活やソフトボールのこと、将来の夢など、可能性に満ちた学生と過ごした日々や教職員の方々からご指導いただいたことは、私の一生の財産になると思っております。松本大学の益々のご発展とご活躍を祈念しております。2年間という短い期間でしたが、大変お世話になりました。ありがとうございました。

新任者紹介

球春のとびらを開く

キャリアセンター 顧問 大久保 隆志
(平成30年10月着任)



昨年10月よりキャリアセンターでお世話になっております。松本大学のすぐ近くに自宅があり、硬式野球部選手の大きな掛け声に元気をもらって通勤しています。学生の皆さんの就職活動のお役に立つよう頑張っております。

ひとりひとりに寄り添った支援を心がけます

キャリアセンター 主事 小野 沙矢香
(平成30年7月着任)



着任前、子育てをする中で松本大学の学生と関わる機会がたくさんあり、活き活きと爽やかに活躍している姿が印象的でした。今回、就職支援という形でサポートさせて頂ける機会を嬉しく思っております。ひとりひとりに寄り添った支援ができるように頑張ります。よろしくお願い致します。

よろしくお祈りします

情報センター 主事 山田 裕樹
(平成31年1月着任)



前職では、ソフトウェア開発の仕事に携わってきました。教育という新たな分野ではありますが、早く仕事を覚えて大学運営に貢献できるよう、精一杯努力いたします。学内の困りごとや要望に耳を傾け、情報機器・システムを整備していきたいと思っております。よろしくお願い致します。

News & Topics

海外研修プログラム参加者への支援金贈呈される

大学の学生が単位認定海外研修プログラムに参加した場合、支援金を受けることができます。本学には現在「松本大学同窓会海外研修支援金」と「村瀬組海外留学給付型奨学金」の2種類の支援金があり、2月21日に今年度の贈呈式が行われました。支援金の対象となる学生は34名で、当日は同窓会と村瀬組の関係者から贈呈を受けました。また、贈呈式の中ではイギ

リスと韓国での研修に参加した2名の学生から研修報告が行われました。海外研修に参加する学生は毎年増加しており、今年度の対象者は昨年度に比べ11名の増でした。また、支援金の他に今年度から同窓会による上限50万円の無利子での「海外留学奨学金」制度が設けられ、学生の海外留学へのサポートの充実が図られています。（国際交流センター 関澤 一洋）



地域に根ざした高大連携事業 “バレンタインスイーツ2019”

2月9日・10日の2日間、「第6回バレンタインスイーツ2019～バレンタインまで待てない!～」がアイシティ21で開催されました。この事業は、本学が長野県商業教育研究会と連携して実施しているデパートサミット事業のアンテナショップとして本学が主催し、長野県商業教育研究会と株式会社井上が共催して、高校生と大学生が開発したバレンタイン用のスイーツを販売するものです。今年は、県内5つの高校と松商短期大学部の金子ゼミ、デパートサミット事業を支援する学生組織「ゆにまる」の7団体が出品し34種類のスイーツを販売しました。中山間地で

ある長野市中条の高齢者と一緒に育てた特産大豆から作ったおからを使用したケーキを販売した長野商業高校など、普段から地域に向かって開発した商品が目立ちました。開店直後からお客様が殺到し早いものでは1時間足らずで売り切れる盛況ぶり、これまでで最高の約96万円の売り上げとなりました。

（観光ホスピタリティ学科 教授 白戸 洋）



「わらべうた講習会」を開催

3月2日、教育学部2階多目的室にて、保育者・小学校教諭のための子どもの育ちをつなぐ「わらべうた講習会」を開催しました。講師には「わらべうた遊び」主宰の原山克江氏を迎え、保育士、小学校教諭、音楽教室講師など計20名が参加しました。

原山氏には、わらべうたには人格形成に寄与する教育的意義があり、わらべうたにより言葉や運動機能の発達とともに情緒の安定と社会性を育むことができる、と発達段階を追った様々な事例を交えて説明していただきました。その後参加者全員でわらべうた遊びを体験し、楽しく充実した時間となりました。多くのわ



らべうた遊びを紹介していただいたことで、年齢に応じた遊び方の工夫という点でも参考になりました。わらべうたで遊んだ経験の少ない世代にも伝え、地域の子育てや保育・教育現場にその価値を広めていく必要性を改めて感じ、今後につなげていきたいと思います。

（教育学部 専任講師 安藤 江里）

部活動情報 Club・Circle

世界を舞台に活躍する松大生

松本大学に在籍し学業に励む一方で、世界レベルの大会で活躍している学生を紹介します。

スノーボード・ハーフパイプでW杯3位!

今井胡桃さん(スポーツ健康学科1年)は、W杯中国大会で自身初のW杯表彰台となる3位、米ユタ州で開催された世界選手権で7位、岐阜県で開催された全日本選手権で2位など、シーズンを通して好調を維持できています。

今井さんは、同種目の日本代表として平昌五輪に出場しており、今後のさらなる活躍が期待されます。引き続きご声援をよろしくお願いたします。

(スキー部部長 齊藤 茂)



W杯表彰台での今井さん(写真右)

「今シーズンはW杯のアメリカ大会4位、中国大会3位、スイス大会7位、カナダ大会4位と、昨様が毎回2桁順位で終わっていたことを考えると、安定して結果を残せています。同時にこの1年で、滑り的にも精神的にもすくなく成長しているなど現時点で感じています。ここから残りの大会、練習の一日一日を大事に頑張っていきたいと思います。」(本人コメント)

マウンテンバイク全日本選手権大会(U23)第1位!

山田夕貴さん(スポーツ健康学科1年)は、自転車の女子マウンテンバイク(MTB)クロスカントリー競技の日本自転車競技連盟U23強化指定選手です。膝の大けがを乗り越え、昨年は長野県で開催された全日本MTB選手権大会(U23)1位、ポルトガルで開催された世界大学選手権大会では9位と好調な成績を残し、2020年の東京五輪を目指し活躍しています。引き続きのご声援をお願いします。

「2018年のシーズンは思ったような成績が出せず思い悩むことが多かったのですが、その中でも全日本選手権で優勝できたことや、初めての世界大学選手権・W杯に挑戦することができたのは私の中で成長に繋がる良い経験となりました。4月からは新しいシーズンの開幕なので、去年よりも強い自分になれるよう日々努力していきたいと思っています。」(本人コメント)



世界大学選手権大会(ポルトガル)にて

三社参り 知ってるあなた どの人

人間健康学部スポーツ健康学科 准教授 山本 薫

新年が明けたと書いていたらもう3月。すっかりお正月気分は吹き飛んでいると思いますが、遅ればせながら先日私は夫婦で伊勢神宮へ初詣に出かけました。初詣というと、私の地元大分をはじめとする九州地方には「三社参り」という風習があります。

地元で初詣の際には「三社参り行こう!」「三社参りどこ行く?」と、家族や友人らと3つの神社にお参りします。大分で有名な神社は宇佐神宮、春日神社、柞原八幡宮などがあり、その他にも地元で親しまれた神社がたくさんあります。この風習は特に厳格

なルールがある訳ではなく、地域によって「三が日に三社参る」、「一日で三社参る」、「午前中に三社参る」など様々な参り方でそれぞれが自由に参っています。

このようなスタイルが定着したのは諸説ありますが、朝廷が伊勢神宮・石清水八幡宮・賀茂神社の三社に奉幣し、庶民も三社を詣るという風習が由来だそうです(参考: おおいたタイム2016)。

私が三社参りによく出かけたのは大学時代で、0時に新年を迎えたあと友人とドライブがてら一晩中走り回って三社参りを行い、最後

に初日の出を見るという流れが定番でした。今でもその時の友人と正月に会いますが「また行こっか」なんて言うこともしばしばです。九州を離れてからは周りの人は誰も三社参りを知らないということに気づかされ、三力所巡りに付き合ってくれる人もおらず、一力所参って済ませていますが、三社参りの起源の一つ伊勢神宮は毎年行きたいお気に入りの場所です。周辺のおかげ横町やおはらい町も楽しめるので末参拜の方にはぜひお薦めします。

みなさん初詣はどこへ行かれましたか。おすすめの参拜地があればぜひ教えてください。三力所と言わず少し欲張ってでもお参りして笑顔で過ごせるよい1年にしたいですね。

Information

2019オープンキャンパス 途中参加・途中退出可

次の日程でオープンキャンパスを行います。高校生はもちろん、保護者や教員の方もぜひご参加ください。

●松商短大限定 [16フィールド体験]

[日時] 4/21(日) 10:30~15:00(受付10:00~)

[内容] 松商短大16フィールド体験、キャンパス見学ツアー、進路・入試・奨学金相談、保護者相談、ランチ無料体験 etc.

●松本大学・松商短大 同時開催

[日時] 5/26(日) 6/23(日)^{*} 7/21(日) 8/4(日)^{*} 8/25(日) 9/28(土) 10:30~15:30(受付10:00~)

[内容] 松本大学・松商短大概要説明、学科説明、ミニ講義、トレーニングルーム体験、ランチ無料体験、キャンパス見学ツアー、個別相談(入試・授業・資格・就職・学生なんでも相談) etc.

詳しくはホームページでご確認いただくか、入試広報室までお問い合わせください。

www.matsumoto-u.ac.jp ☎0120-507-200



硬式野球部公式戦の日程

関甲新学生野球連盟
春季2部リーグ戦

※球場が変更になる場合があります。

節	月	日	曜	対戦カード	開始時間	会場
第2節	4	13	土	松本大学 - 埼玉大学	10:00	松本大学 野球場
		14	日	埼玉大学 - 松本大学	12:30	
第3節	4	20	土	松本大学 - 常磐大学	12:00	松本大学 野球場
		21	日	常磐大学 - 松本大学	12:00	
第4節	4	27	土	松本大学 - 新潟大学	12:00	松本大学 野球場
		28	日	新潟大学 - 松本大学	12:00	
第6節	5	11	土	松本大学 - 高崎経済大学	10:00	松本大学 野球場
		12	日	高崎経済大学 - 松本大学	12:30	
第7節	5	18	土	関東学園大学 - 松本大学	10:00	平成国際大学 野球場
		19	日	松本大学 - 関東学園大学	12:30	

無料シャトルバス運行

長野県内<松本駅、長野駅、上田駅、佐久平駅、岡谷駅、下諏訪駅、茅野駅、伊那(上伊那農業高校前)、飯田駅>・山梨県<甲府駅、小淵沢駅>、新潟県<新潟駅、高田駅>からシャトルバス運行 ※松本駅以外要予約



松商学園創立120周年記念 教育拡充募金のお願い

松商学園の今後の更なる発展のための記念事業を推進するために、皆様方の温かいご理解を賜りたくお願い申し上げます。

募金の方法については
こちらから



編集後記

いつもより駆け足でやって来た春。でも、私にとってこの一年は、全ての季節が駆け足で過ぎていったように感じています。間もなく入試も全て終わり、新たな学生募集がスタートです。

蒼穹の制作に関わり、生き生きとした学生の姿や多彩な研究活動、地域社会との深い繋がりなど、松本大学の魅力を肌で感じながら、同時に、この魅力を多くの人に伝えることが広報の役目であること、そしてこの魅力こそが松本大学の学生募集の核であることを、あらためて強く思う一年となりました。本当にありがとうございました。

卒業する皆さん、皆さんが地域で活躍する姿も松本大学の魅力です。いよいよ蓄えた力を発揮する時。頑張れ!

(記・入試広報室長 坂内 浩三)



〒390-1295 長野県松本市新村2095-1
TEL 0263-48-7200 FAX 0263-48-7290
www.matsumoto-u.ac.jp

